

UDCBK 令和2(2020)年度実施事業報告

1. 事業プロジェクト

(1) 都市デザイン連携プロジェクト

① 南草津駅周辺の公園を中心としたまちづくり

令和2年度は、二つの取組を並行して進めた。南草津プリムタウンの公園づくりについては、令和元年度から、同事業地区の5つの公園のうち入居の始まる1号公園をフィールドとして、居住を予定する住民の要望や意見を反映しかつ十禅寺川沿いの景観にも配慮した新しい公園づくりを、市民・土地区画整理組合・草津市・大学が連携して取り組みを開始した。令和2年度は、社会実験準備事業等「住民参加の新しい公園づくりー南草津プリムタウンの公園中心型コミュニティデザインを目指すための社会実験」事業として取り組んだ。

南草津駅西口の東山道記念公園の利活用については、令和元年度から取り組んでいる「みなくさまちライブラリー」を活用した市民のコミュニティの形成やまちの賑わい創出、健康寿命の延伸に繋がる取り組みを進めてきた。令和2年度は、学生が自主的に次の担い手を作り情報発信を中心に公共空間での実践に向けて進め方について考える取り組みを行った。

② 地域再生計画支援

「草津市版地域再生計画」対象地域の住民主体のまちづくりの取組を支援するために研究会への参加や専門家を招いたセミナー等、関係者のニーズを踏まえ継続した支援を行う予定であったが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から集客が難しく実施できなかった。次年度へ向けては事業プロジェクトとしては整理しつつ引き続き可能な取り組みを進める。

(2) 都市と交通プロジェクト

① 市民参加のワークショップ

令和元年度、立命館大学、滋賀県、草津市都市計画部、UDCBKで都市と交通シナリオスタディ研究会を開催し、2040年の南草津駅周辺の将来像を複数のシナリオとして描く中で交通インフラを含む望ましい都市空間のあり方を提言する取組へむけて準備的な議論を進めた。

令和2年度は、都市と交通シナリオスタディプロジェクトのバージョンアップを図り、専門家のレクチャー、産学公民連携ワークショップ等を通じて、長期的な視点で未来の都市デザインを構想するため、「都市と交通プロジェクト・シナリオスタディワークショップ」を実施した。ワークショップは、7月に専門家を招いた4回のオンラインセミナー（2-（2）参照）を行い、受講者の中から希望者を募って3回にわたってオンラインで開催した。研究会メンバーは全体で、市民、学生、教育関係者等28人の参加があり、オブザーバーとしてコンサル会社から4人の参加があった（実人数）。

	開催日	内 容	参加者数
第1回	8月21日	未来の分かれ道に関するプレスト	22人
第2回	9月11日	シナリオ分割とネーミング	21人
第3回	10月2日	バックヒストリーを考える	23人

全3回行ったワークショップでは、3班に分かれて20年後の未来のまちづくりの課題を議論し、下記のようなシナリオが提言された。

班	ファシリテーター	シナリオ
①	塩見康博氏(立命館大学理工学部准教授)	域内のFace to Faceの交流が促進されるまち
②	金度源氏(立命館大学理工学部准教授)	南草津駅を拠点とした山と湖の交流
③	阿部俊彦氏(立命館大学理工学部准教授) 武田史朗氏(UDCBK副センター長、立命館大学理工学部教授)	新旧の多様なコミュニティが融合する共生都市

プロジェクトでまとめられたシナリオは各ファシリテーターにより整理され、各提案をイメージパース図に分かりやすくまとめた上で、令和3年2月、アーバンデザインセミナーで報告された。セミナーでは、ワークショップ参加者と聴講者で未来のイメージの確認とディスカッションが行われた。なお、イメージパース図はパネルにしてUDCBK内に展示を行い来場者に見ていただいているが、令和3年2月25日から令和3年3月19日の間アンケートも行った。

② 南草津エリアまちづくり推進ビジョン(南草津ビジョン)

上記のワークショップは20年後の南草津エリアの都市のイメージをシナリオとして作成することを目的として開催したが、南草津ビジョンは10年後の南草津エリアのまちづくりのコンセプトや基本方針を策定するために草津市都市計画課およびUDCBKが行う事業であり、UDCBKは南草津エリアまちづくり推進懇話会の事務局として参加している。令和2年度中に5回の懇話会が開催され、南草津エリアにおけるまちづくりの現状および課題、今後のまちづくりのコンセプトやゾーニング等について議論がなされた。

令和3年度は、検討案が公表されパブコメ等をふまえて前期中に策定される予定である。

	開催日	内 容
第1回	8月3日	・南草津エリアまちづくり推進ビジョン(南草津ビジョン)策定方針について ・南草津エリアの現況と課題について
第2回	10月6日	・南草津エリアの課題について ・基本方針(案)およびゾーニング(案)について
第3回	11月25日	・コンセプト等の整理について

第4回	1月20日	・ビジョン素案(案)について
第5回	3月23日	・パプコメ案について

(3) 大学生が住むまちプロジェクト

上半期については、新型コロナウイルス感染症の拡大予防としてオープンスペースを利用しての集客を抑制したことや、各大学で学生のキャンパス立ち入りが制限され多くの講義が対面授業からオンライン授業にシフトしたことから学生の活動が停滞した。10月以降については、順次キャンパスに学生が戻ってきたことにより、with/after コロナに対応した新しい模索が始まった。その結果、「みなくさまちライブラリー」や授業の取組の中で行政へのヒアリングや活動発表の場として学生がUDCBKを利用するなど、活動を再開した学生の姿も見受けられるようになった。

令和元年度から実施していただいているまち調べオープンプレゼンテーションについては、オンラインでの開催に協力し、様々な立場の方から学生の活動を見てもらい、一般参加者と意見交換する機会などを設けた。そのほか、環びわ湖・地域コンソーシアムに加盟する大学の学生が取り組んだSHIGA SDGs Studiosの成果展示をオープンスペースで行った。今後、大学生が生き生きとキャンパスと地域で活動ができるようUDCBKとしても事業の見直しや再構築を図る。

	実施日	内容	主催者
1	12月4日 ～12月18日	SHIGA SDGs Studios成果展示会	SHIGA SDGs Studios
2	1月9日	立命館大学環境都市工学科2回生による まち調べオープンプレゼンテーション	立命館大学理工学部環境 都市工学科

2. 学習事業

(1) アーバンデザインスクール（前期後期各5回→全5回）

本事業では市民と専門家をつなぐコミュニケーターを育成することを目的に、アーバンデザインの考え方や事例を専門家から体系的に学ぶ機会を提供してきた。従来型のUDCBK施設内での対面講義形式でのスクール開催は3密対策の観点から見直しせざるを得ず、本年度前期のスクール開催を断念した。下記のセミナーで試行的に行ったオンライン配信での経験を踏まえ、後期についてはオンライン配信を基本としたスクール開催を行うこととした。

テーマは「これからの健幸都市に向けて～with/after コロナのまちづくり～」とし、全5回シリーズで行った。

新型コロナウイルス感染症をきっかけとして生じた新しい時代において、どのようなまちづくりを行っていくべきかを異なる分野の専門家を講師に迎え、多角的な視点から、「これからの健幸都市」を考えた。

	開催日	内 容	参加者数
第1回	10月23日	テーマ:地域共生社会とまちづくり	21人

産 ¹ 学		講師:肥塚浩氏(立命館大学大学院経営管理研究科教授、同医療介護経営研究センター長) 錦戸気吹氏(株式会社レスコ経営企画)	内訳 オンライン 15 人 UDCBK 6 人
第 2 回 学	11 月 27 日	テーマ:医学を基礎とするまちづくり 講師:遊佐敏彦氏(奈良県立医科大学 MBT 研究所講師)	11 人 内訳 オンライン 10 人 UDCBK 1 人
第 3 回 学	12 月 12 日	テーマ:成熟時代の都市空間再編 講師:嘉名光市氏(大阪市立大学大学院工学研究科教授)	11 人 内訳 オンライン 10 人 UDCBK 1 人
第 4 回 公	1 月 29 日	テーマ:道路占用緊急緩和とおおみやストリートテラス 講師:新津瞬氏(アーバンデザインセンター大宮デザインリサーチャー)	23 人 内訳 オンライン 20 人 UDCBK 3 人
第 5 回 産	2 月 26 日	テーマ:with/after コロナにおけるプレイスメイキング ~南草津の公共空間の利活用に向けて~ 講師:園田聡氏(ハートビートプラン・認定 NPO 法人日本都市計画家協会 理事)	23 人 内訳 オンライン 20 人 UDCBK 3 人

※ コーディネート

第 1 回: 及川清昭氏 (UDCBK センター長、立命館大学理工学部 特命教授)

第 2 回/第 4 回/第 5 回: 阿部俊彦氏 (立命館大学理工学部 准教授)

第 3 回: 武田史朗氏 (UDCBK 副センター長、立命館大学理工学部 教授)

(2) アーバンデザインセミナー (12 回)

本事業は広く市民がアーバンデザインを身近に感じることができるよう、テーマごとの相互学習の場と機会を提供し、事業プロジェクトと連動したテーマやまちづくりに有益なトピックを取り上げ、多様な層の問題や関心に応えた。今年度前期はオンライン配信 (UDCBK での視聴可能) を試行的に行い、運営ノウハウの蓄積などを得られたため、後期についても引き続きオンライン配信を基本にセミナーを開講することとした。

	開催日	内 容	参加者数
第 1 回 公 民	7 月 3 日	テーマ:情報発信とまちづくり 講師:南部敏之氏(草津ファン☆プロ副代表)	13 人 内訳 オンライン 9 人 UDCBK 4 人
第 2 回 学	7 月 8 日	テーマ:フューチャー・デザイン~持続可能な未来に向けて 講師:原圭史郎氏(大阪大学大学院工学研究科教授)	39 人 内訳 オンライン 33 人 UDCBK 6 人

¹ 表中の産等は、産学公民の連携先を示している。産企業など、学大学など、公行政など、民市民など。

		武田史朗氏(立命館大学理工学部教授)	
第3回 学	7月11日	テーマ:まちづくりシナリオメイキング 講師:佐藤滋氏(早稲田大学名誉教授) 阿部俊彦氏(立命館大学理工学部准教授)	40人 内訳 オンライン 38人 UDCBK 2人
第4回 産学	7月22日	テーマ:CASE 時代の新都市デザイン〜Beyond MaaS がまちを変える 講師:牧村和彦氏(計量計画研究所理事) 塩見康博氏(立命館大学理工学部准教授)	33人 内訳 オンライン 26人 UDCBK 7人
第5回 学	7月31日	テーマ:未来における安全な都市を考える 講師:牧紀男氏(京都大学防災研究所教授) 金度源氏(立命館大学理工学部准教授)	32人 内訳 オンライン 27人 UDCBK 5人
第6回 産公	9月18日	テーマ:福祉から考えるまちづくり 講師:井上直美氏(草津市高穂地域包括支援センター主任介護支援専門員) 中西稔氏(草津市長寿いきがい課主査)	25人 内訳 オンライン 21人 UDCBK 4人
第7回 学	10月9日	テーマ:歩いて暮らせるまちのつくり方 講師:吉田哲氏(京都大学大学院工学研究科建築学専攻准教授)	28人 内訳 オンライン 27人 UDCBK 1人
第8回 学	10月28日	テーマ:将来のリスクを考えたまちづくり 講師:伊藤美樹子氏(滋賀医科大学公衆衛生看護学講座教授)	14人 内訳 オンライン 13人 UDCBK 1人
第9回 学	10月14日	テーマ:南草津の未来のまちづくりと交通 講師:塩見康博氏(立命館大学理工学部環境都市工学科准教授)	18人 内訳 オンライン 10人 UDCBK 8人
第10回 産学	12月4日	テーマ:歴史的資産のある未来のまちの魅力 講師:宮村利典氏(近江八幡まちや倶楽部代表)	14人 内訳 オンライン 10人 UDCBK 4人
第11回 学	1月13日	テーマ:開かれたまちづくりの場アーバンデザインセンター 講師:前田英寿氏(芝浦工業大学建築学部教授)	21人 内訳 オンライン 18人 UDCBK 3人
第12回 産学公	2月17日	テーマ:「都市と交通プロジェクト」ワークショップ 成果報告会 20年後の南草津の「まちと交通」の未来を考えよう 講師:武田史朗氏(UDCBK 副センター長、立命館大学理工学部教授) 塩見康博氏(立命館大学理工学部准教授)	30人 内訳 オンライン 23人 UDCBK 7人

		金度源氏(立命館大学理工学部准教授) 阿部俊彦氏(立命館大学理工学部准教授)	
--	--	---	--

※第2回から第5回までは「20年後の南草津の『まちと交通』の未来を考えよう」の全4回シリーズ

※第6回から第8回までは「シリーズ『健やかなまち』を考える」の全3回シリーズ

※第12回は都市と交通プロジェクトのワークショップの成果報告を兼ねて実施

3. 社会実験準備事業等

本事業は、草津市が包括協定を締結する7大学を対象にUDCBKの提示するテーマについて社会実験の提案を準備事業として委託するものである。

令和2年度については、従来の枠組みを一部変更し、UDCBKの事業プロジェクトに基づいて行うA区分、「健幸都市」に関わってUDCBKが募集するテーマに基づいて行うB区分で募集し、A区分1件、B区分5件を採択した。

新型コロナウイルス感染症の影響を受け各大学とも前期の教育研究活動において著しく制約を受けたことから、本格的な活動は後期以降とならざるを得ない状況となっている。UDCBKは6件の採択事業との緊密な連携をはかりながら所期の成果が得られるよう事業を進めることとした。

今年度については、応募期間を前年度より2カ月早めて調査研究期間をより長く設定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大予防の対策で、各大学の授業開始時期が1カ月程度遅れることとなったため、各大学からの意向を受け、応募期間を1カ月延長した。

大学の授業開始後については、各大学ともオンライン授業が基本となったため、学生が主体となってワークショップ等を行う委託事業については実行が難しく、当初予定より進捗が遅れた。また、委託事業の実施にあたり本市の関係部署との協議が必要なものについては、協議を行い、今後の見通し等の情報共有を行った。

2月24日に成果報告会を開催し、最終報告をホームページ上に掲載している。

※募集要項配布：4月7日（令和元年度より2カ月前倒し）

※募集締め切り：5月29日（新型コロナウイルス感染症の影響で4月28日から延長）

※決定通知：6月19日

※計画書修正・契約手続き期間：6月19日～7月19日

※委託期間：令和2年7月20日から令和3年2月26日（立命館大学）

令和2年7月21日から令和3年2月26日（滋賀大学）

※成果報告会：令和3年2月24日（水）18時～20時 オンライン（Zoom）

参加者 33名（オンライン31名）

A区分

単位：円

募集テーマ	応募事業名	応募大学	事業責任者名	事業費総額	審査決定金額
住民参加の新しい公園づくり	住民参加の新しい公園づくり－南草津プリムタウンの公園中心型コミュニティデザインを目指すための社会実験	立命館大学	金 度源	300,000	300,000
				300,000	300,000

B区分

単位：円

募集テーマ	応募事業名	応募大学	事業責任者名	応募額	審査決定金額
安全・安心に配慮した公共空間の整備	街を楽しむ使いこなせるパブリックスペース～withコロナ／afterコロナの街の居場所のデザインを考える～	立命館大学	阿部 俊彦	200,000	200,000
歴史文化を活かすまちづくり	歴史的遺産に対する住民の態度変容を目的とした「歴史ARマップ」の開発と評価	立命館大学	塩見 康博	200,000	139,000
歴史文化を活かすまちづくり	街道の補助線－歴史資産を繋ぎ、街道を顕在化させるアートワークとしての路面標示の実施－	立命館大学	藤井 健史	200,000	132,000
健康活動を誘発する環境づくり	コロナ禍に対応する持続可能な食ビジネス地域支援システムの構築に向けた調査	立命館大学	阿良田 麻里子 吉積 巳貴	200,000	100,000
健康活動を誘発する環境づくり	子育てを楽しめるまちづくりを実現するための育児ストレスサポートシステム開発に向けたニーズ調査	滋賀大学	大平 雅子 芦谷 道子	199,100	129,000
				999,100	700,000

区分 A:1 件 区分 B:5 件

A区分+B区分 総計	1,299,100	1,000,000
------------	-----------	-----------

4. オープンスペース

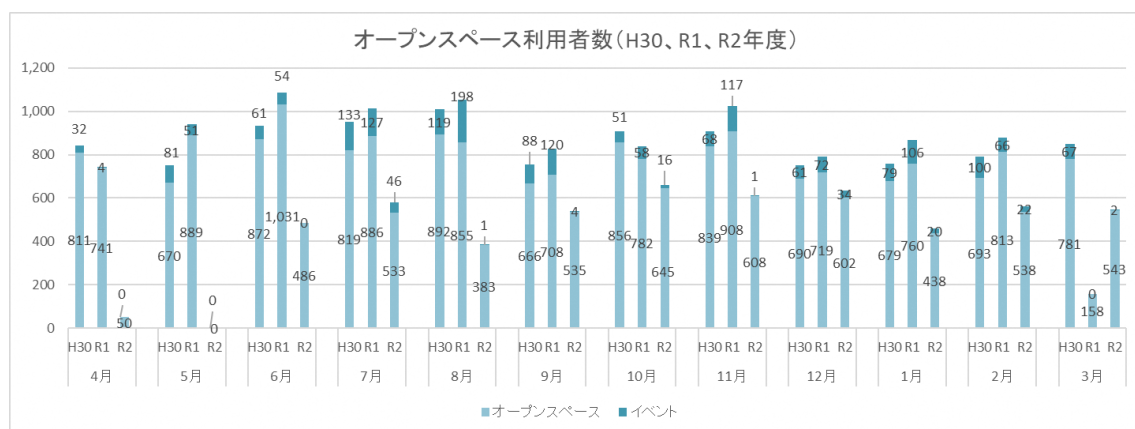
現在の場所に移転して3年半が経過し、徐々にUDCBKの認知度が高まるにつれてオープンスペースは多様な層の利用が促進されてきた。南草津駅周辺で働き、学び、生活する多様な層が利用できるパブリックスペースが不足している中で、UDCBKはそのモデルとなるような場を事業の一環として提供している。多様な市民が「産学公民が連携して未来の都市のデザインのために人と情報が集まる」UDCBKのオープンスペースを“まちの広場”として利用することで、そこが多様な市民にとっての“サードプレイス”となるよう引き続き運営する。

新型コロナウイルス感染症の拡大防止等の影響により、UDCBKのオープンスペースでの交流、学習、協議などの活用に変化が生じてきていることから、今後、全国のUDCの動向も参考にしながら将来的なあり方について検討を進める。

●オープンスペース利用者

令和2年4月～令和3年3月	5,507人（前年度比	4,716人減）
〈内訳〉		
オープンスペース利用者	5,361人（前年度比	3,889人減）
イベント参加者（UDCBK内）	146人（前年度比	827人減）
（※オンライン含めた場合	585人）	
1日平均	28.86人（前年度比	16.42人減）

※新型コロナウイルス感染症拡大予防に伴う休室期間（4月7日～5月31日）。
オープンスペースの利用再開後については、座席数を半分に減らし、机・椅子の移動を控えてもらう等、密を避ける体制を取っている。



【やさしい日本語サロン】

やさしい日本語サロンは、外国にルーツを持つ人と日本人がやさしい日本語で交流を深めつつ、草津のまちづくりについて考えるきっかけを提供することを目的に、令和元年度までは毎週開催していたが、今年度は新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、草津市国際交流協会（KIFA）と共催にて月2回オンラインで実施している。オンラインでは、外国と日本の文化の違いや、日頃やさしい日本語サロンに携わる方々が行っている活動等を聞く機会を設けた。

【オープンスペースでの情報発信】

施設内に設置している大型プロジェクターを用いて令和3年1月から次のように曜日ごとに内容を変えて様々な情報を提供している。

火	水	木	金	土
連携・共催事業 関連 (KIFA 等)	草津市役所 公式 YouTube	スクール等 UDCBK の 情報発信	スクール等の アーカイブ又は 情報発信	草津市役所 他部署の告知他

【利用者アンケートから】

UDCBK のオープンスペースを初めて利用される方や特に UDCBK に意見を伝えたい方を対象に、年間を通じてアンケートを実施している（延べ 77 人（1月末現在））。また、UDCBK のオープンスペースを利用される方全員を対象に、1 箇月間（令和 2 年 11 月 25 日から 12 月 24 日まで）、特別調査を実施した（回収率 90.3%、288 人中 260 人）。主な結果は次のとおりであり、今後、UDCBK の各種プロジェクトに参画してもらえるよう啓発や呼びかけが必要となる。

現状	① 利用者の約 7 割が女性 ② UDCBK 利用者の約半数が児童・生徒・学生（小・中・高・大学生） ③ UDCBK 利用者の利用目的の約半数は学習などの作業のため ④ 利用者の約 8 割の人が UDCBK 主催のセミナーなどに参加したことがない ⑤ UDCBK の場所を知るきっかけの約半数は友達や知り合いからの紹介
----	---

令和元年度 特別調査と の比較	① 女性の利用割合が減り、男性の利用割合が増えた。 ② 高齢者の利用割合が減り、児童・生徒・学生の利用割合が増えた。 ③ 県内他市の利用割合が減り、市内の利用割合が増えた。 ④ JR での来室者の割合が減り、自転車での来室者の利用割合が増えた。 ⑤ 主婦等のその他の利用割合が減り、学生や会社員の利用割合が増えた。 ⑥ 一部の利用者の利用頻度は増えたが、全体としては一人当たりの平均利用頻度が減った。 ⑦ 自習やテレワークの場所を探していた方が UDCBK の前を偶然通りがかって利用される機会が増えた。
-----------------------	--

5. 情報発信

UDCBK の活動を発信し、市民的理解を得ることは重要であり全国の UDC ネットワークにおいても情報発信は重視されている。UDCBK のホームページについては、草津市のホームページに含まれており一定の制約を受けているが、可能なところからの情報発信に努めている。

情報発信の内容については、これまでの報告中心のものから、UDCBK の基本情報およびセミナー等の企画など発信を重視したものへと比重を移した。

なお、独自に公式アカウントを持つ Facebook については、昨年度に引き続き、週に 2 回を目標に情報発信し、主に UDCBK での活動やそこから生まれた取組等を中心に掲載した。

また、UDCBK 事業運営懇話会等でも意見をいただいている、LINE やインスタグラムの活用については、UDCBK の利用者や関係機関（老上学区まちづくり協議会の公式 LINE とは今年度連携済）との連携の中で活用していく方向で進めていく。

●Facebook での情報発信

令和 2 年 4 月～令和 3 年 3 月

143 回発信（前年比 24 回増）

6. 法人化検討

令和元年度までに事業を進めながら法人化ワーキング部会で整理したメリット・デメリットを整理した。

新型コロナウイルス感染症の拡大防止等の影響を見極めながら、新しい生活様式も踏まえた UDCBK のありようを、全国の UDC の動向を参考にしながら検討した。

7. UDCBK 事業運営懇話会

アーバンデザインセンターびわこ・くさつ(UDCBK)事業の運営方針の検討、運営状況の確認等を行うとともに、法人化の妥当性について助言をいただくことを目的に設置している。令和 2 年度に改選を行い、令和 2 年 6 月 1 日から令和 4 年 5 月 31 日までの任期。

【アーバンデザインセンターびわこ・くさつ事業運営懇話会の開催】

	開催日	内 容
第1回	7 月 8 日	・令和元(2019)年度事業実施事業実績

		・新型コロナウイルス感染症の拡大防止に係る対応等 ・令和2(2020)年度実施予定事業
第2回	10月22日	・UDCBK 令和2(2020)年度実施事業(中間報告) ・南草津エリアまちづくり推進懇話会 ・with/after コロナのまちづくりについて
第3回	2月24日	・令和2年度事業実施状況について ・令和3年度実施予定事業について

【アーバンデザインセンターびわこ・くさつ事業運営懇話会委員】

区 分	氏 名	所 属・役 職
座 長	肥塚 浩	立命館大学大学院経営管理研究科長・草津未来研究所顧問
副座長	加藤 幹彦	草津商工会議所専務理事
委 員	及川 清昭	立命館大学理工学部特命教授・キャンパス計画室長 (アーバンデザインセンターびわこ・くさつセンター長)
	武田 史朗	立命館大学理工学部都市デザイン学科教授・キャンパス 計画室副室長 (アーバンデザインセンターびわこ・くさつ副センター長)
	田畑 泉	立命館大学 BKC 地域連携室長(スポーツ健康科学部教授)
	田中 浩子	立命館大学食マネジメント学部教授
	神部 純一	滋賀大学教育学部教授
	阪本 崇	京都橘大学副学長(京都橘大学現代ビジネス学部教授)
	秦 憲志	滋賀県立大学地域共生センター主任調査研究員
	松浦 昌宏	滋賀医科大学研究戦略推進室産学連携推進部門長 特任教授
	深尾 昌峰	龍谷エクステンションセンター・センター長 (龍谷大学政策学部教授)
	伊庭 健治	草津市まちづくり協議会連合会副会長
	有村 敬三	パナソニック株式会社アプライアンス社 人事・総務センター総務部総務一課長
	片岡 一明	株式会社滋賀銀行草津支店長
	内山 礼子	公募委員
	亀石 弥都	公募委員
	北村 亜耶	公募委員
	松井 栄里	公募委員

8. その他

- (1) 産学公民連携による英知を活かすため、関係者との交流を随時行った。

令和元年度に繋がった各団体等との連携を深め、UDCBK の各事業に結びつける取り組みを強化した。

- (2) 全国の UDC の先進的な取組に学び、UDC ネットワークとの交流を深めている。

10月3日には「第8回アーバンデザインセンター会議」(UDC078(神戸市)・UDCイ

ニシアチブ共催）がオンラインで開催され、全国の UDC（21 団体）から 13 団体の参加があり、UDCBK からはセンター長および事務局の 3 名が参加した。

参加団体からは、下記のような取組の紹介がされたほか、「ニューノーマルと都市づくり」をテーマに全国の UDC とワークショップ形式で情報交換を行い、with/after コロナの都市づくりで必要とされる考え方の共有を行うことで、UDC ネットワークの繋がりをさらに深めた。

全国の UDC の取組例

- ・さんちかプロジェクト（UDC078）：人の流れと気流を分析し、AI を活用して省エネ化・低炭素化を図る地下街の空調最適化の社会実験を実施。
- ・街並みデザインガイド（UDCMi）：街並み・住環境を維持・向上させ、より一層魅力ある街並みへと誘導することを目的に街並みデザインガイドを作成。
- ・ストリートランチプロジェクト（UDC0）：街路沿道をキッチンカー等に提供する「おおみやストリートテラス」を昼限定で毎日開催する社会実験を実施。
- ・STREET PLANTS PROJECT（UDC0）：市民が植栽を購入して街の緑を増やす仕組みの社会実験を実施。
- ・子どもサンカク広場（UDC2）：園庭のない保育園に「パブリックスペースこどもキット」を臨時的に設置する社会実験を実施。
- ・お散歩プログラム（UDCM）：3 密を回避してくつろげる屋外空間やテイクアウトを片手に滞留できる場所等をまとめて散歩コースを複数提案する地図アプリを提供。

(3) 産学公民連携に関わる UDCBK への相談件数

令和 2 年 4 月～令和 3 年 3 月 ①産 17 件 ②学 17 件 ③公 21 件 ④民 12 件 計 67 件

例）SDG s 報告会への協力、認知症サポーター養成講座等